

国は脱炭素社会と電力の安定供給の名目で原発を活用している。東日本大震災での事故を忘れたのだろうか。そしてウクライナの紛争を見れば、原発は最大のリスクではないか。

2月16日、福島県沖のスズキから、県漁連の出荷基準である50ベクトルを超える放射線セシウムが検出された。スズキは海と川を回遊するため、未除染の葉や藻を食べた魚を食べたスズキともいえるが、漁連の苦しみは続く。

戦争の影響によるエネルギー問題で、欧州では原発の拡大が検討されていると聞き非常に残念です。一刻も早く平和となり、資源や人々が自由に世界を行き交い、多くの人間が安全と幸せを手に入れることを祈ります。

菅原文太の名言。「政治の役割はふたつあります。一つは、国民を飢えさせないこと、安全な食べ物をたべさせること。もう一つは、これが最も大事です。絶対に戦争をしないこと！」

## 福島第一原発事故から12年

私たちは、原発のない社会を作りたい。

原発が止まった期間を運転期間から差引き、実質的に60年を超える運転を可能にするという手法に疑義を唱えて反対を表明した規制委員会の石渡明委員の毅然とした意思表示に「同感！」感動しました。

「国策民営」で建設・運営してきた日本の原発政策は、もはや限界だ。新たな「原発廃炉法」を作り、電力事業者から原発事業を国に移管させ、一元的に廃炉推進、核廃棄物処理、汚染水処理や廃炉技術の研究体制を創設すべきだ。

原発の寿命延長に関する法制度の見直しも原子力規制委員会が了承した。安全性よりも政策上の判断に委ねることになった。日経新聞ですら、「原子力の規制は透明な議論を」と社説で、疑問を投げかけた。原子力との科学的政治的闘いは続く。



原子炉研究者や技術者、廃炉作業に従事する労働者は直接雇用し、健康診断や社会保障制度など原発にかかわる労働を安心・安定した職場環境にすることに政治・政策の舵を切るべきと思う。

処理できないものを増やす事は子供たちの未来を壊す事。再稼働の費用で電気代は上がる。原発は核武装になることも忘れないで。あの日を無かった事にするような今の政府にもっと怒りを！私たちは福島を忘れない！

国策で始めた原発で被災者が発生、国に責任が無いと判決を書く裁判官は変です。住民の生活・暮らしを守る立場の地方自治体が、国に対して抗議しない？ 被災者の生活・暮らしを守らない処に私達は住んでいる。

国は、「トリチウム水は薄めて流すと、安全」と言うが、うそ！ 除去すべきとされるストロンチウム90、ヨウ素129、ルテニウム106、テクネチウム99、プルトニウム等が基準値を越えて残留しているという。グリーンピースも警鐘を鳴らしている。流しちゃダメ！

# 私たちは フクシマを忘れない

私たちは、一人でも入れる  
労働組合です。

毎月11日に街頭で、  
情宣活動を行っています。



毎月11日の脱原発  
ビラまきは、まだまだ  
終われないですね～  
これからもみんなで協  
力して続けますよ～！



横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL/FAX 045-575-1948

**よこはまシティユニオン**  
**全造船関東地協労働組合**



← 「よこはまシティユニオン」  
検索はこちらから